

立科町テレワーク推進事業 令和5年度の事業方向性について

1 目指す姿

社会福祉型テレワーク が実装された町へ

多様な人たち（子育て世代、障がい者、高齢者、ひきこもり等）が町のあらゆる場所で ICT を活用して仕事を通じた社会参加を果たす仕組みが動いている状態

2 現状の課題

(1) 雇用創出型テレワーク

- ワーカー数が増加したものの、アクティブワーカー（業務に積極的に参加しているワーカー）が登録ワーカーの半数にとどまっている。
- 新規登録ワーカーの増加に伴って、スキルレベルに大きな差が生まれている。
- 業務拡大に伴うワークスペースの不足。特にウェブ会議場所の不足（遮音性）。

(2) 企業進出型テレワーク

- おためしナガノ
実施後の当町との関係性構築。
- 立科 WORKTRIP
受入施設の偏り
コーディネーター人材の育成
宿泊施設以外のワークスペースの確保

3 それぞれの課題と解決に向けた方向性

(1) 雇用創出型テレワーク

- スキルや意欲の状況に応じて異なる育成支援メニューを用意する（別添 立科町テレワークセンター登録ワーカーの分布イメージ参照）。
- 初心者ワーカーがチャレンジしやすい業務ストックの確保
- 未利用スペース（倉庫）の活用により、短期的には確保。

(2) 企業進出型テレワーク

- 受入総数を増加させていくことで、ホテルやペンションまんべんなく送客する
- 受入実績の積み上げによる作業のマニュアル化による省力化を図る
- 女神湖畔にシェアオフィスを設置する（別添 プレスリリース以下文書参照）

4 財源

(1) 地方創生推進交付金

令和4年度で二期目（R.2～R.4）の交付金対象期間が終了。令和5年度は、塩尻市・安曇野市・糸魚川市が広域連携で認定を受けている「地方における時短就労者を対象とした自営型テレワーク推進事業計画」に加わる予定。

立科町テレワークセンター登録ワーカーの分布イメージ

つなぎとめておきたい
ワーカー層

- すでに他バイトや兼業で活躍している
→本事業への参加は限定的
- ここに属するワーカーは極めて少ない

コミュニティ機能の維持

リーダーとして
活躍してほしいワーカー層

- もともと高いスキルを有している
- 業務経験を積むことでスキルが上がった
→中長期的に同じ業務を担当した

主体的な役割の創出

業務参加意欲

支援が必要な
ボリュームゾーン

- 自信がない・低い自己肯定感
- バイト掛け持ちでフルコミットできない
- キャリアプランが見通せない

リスキリング／キャリアプラン研修

最も育てていきたい
ワーカー層

- 明確な動機（稼ぎたい、活躍したい、成長したい）
- 様々な種類の業務に参加

業務特化研修／グループでの学び合い

スキル

※業務処理能力、習熟度



観光庁令和3年度経済対策関係予算事業

「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」に、 立科町女神湖エリアの地域計画が採択されました

“余暇を楽しむ場所から、仕事+余暇を楽しむ場所へ進化を遂げるレイクリゾートへ”

観光地の面的な再生に向けた地域の取組みを支援する観光庁の補助事業「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」に申請をしていた「立科町女神湖エリア」の地域計画が、令和4年7月15日に観光庁の採択を受けました。

採択を受けて、女神湖エリア周辺の民間事業者と町が地域一体となって、計画に基づいた、宿泊施設の高付加価値化や廃墟の撤去、シェアオフィスの設置等に取り組めます。



1 採択された地域計画の概要

- エリア名 長野県立科町「女神湖エリア」
- 狙い 豊かな自然資源と中長期滞在という新しい観光需要を掛け合わせることで、時代に合わせたレイクリゾートへ進化させ観光地としての再生を目指す。
- ターゲット
 - ・レイクサイドでのリゾートステイに魅力を感じるミドル層
 - ・多地域拠点での「暮らすような旅」を体験したい・実現したい層
- 総事業費 877,936 千円（予定）
- 参加事業者 13 事業者

2 具体的な事業内容

事業区分	事業数	事業主体
①宿泊施設の高付加価値化改修	9	民間事業者
②観光施設の改修	2	民間事業者
③廃屋の撤去	4	民間事業者(1)、立科町(3)
④公的施設の観光目的での利活用のための民間活力の導入	1	立科町
⑤実証実験	1	民間事業者
計	17	

立科町では本事業の採択を受けて、今年度中に次の事業を実施する予定です。

事業区分③ 旧ホテルグランビュー蓼科他2件建物撤去

事業区分④ 女神湖センター改修（シェアオフィス設置）

■ 計画全体に関すること

立科町 産業振興課 観光商工係
(課長)櫻井豊 (担当)今井盛靖
電話 0267-88-8412(直通)
kankou@town.tateshina.nagano.jp

■ 廃屋の撤去に関すること

立科町 総務課 財政係
(課長)齋藤明美 (担当)市川理
電話 0267-88-8401(直通)
soumu@town.tateshina.nagano.jp

■ 女神湖センター改修に関すること

立科町 企画課 地域振興係
(課長)竹重和明 (担当)上前知洋
電話 0267-88-7315(直通)
kikaku@town.tateshina.nagano.jp

事業名 女神湖センターシェアオフィス改修事業 事業者名 立科町 住所 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野987

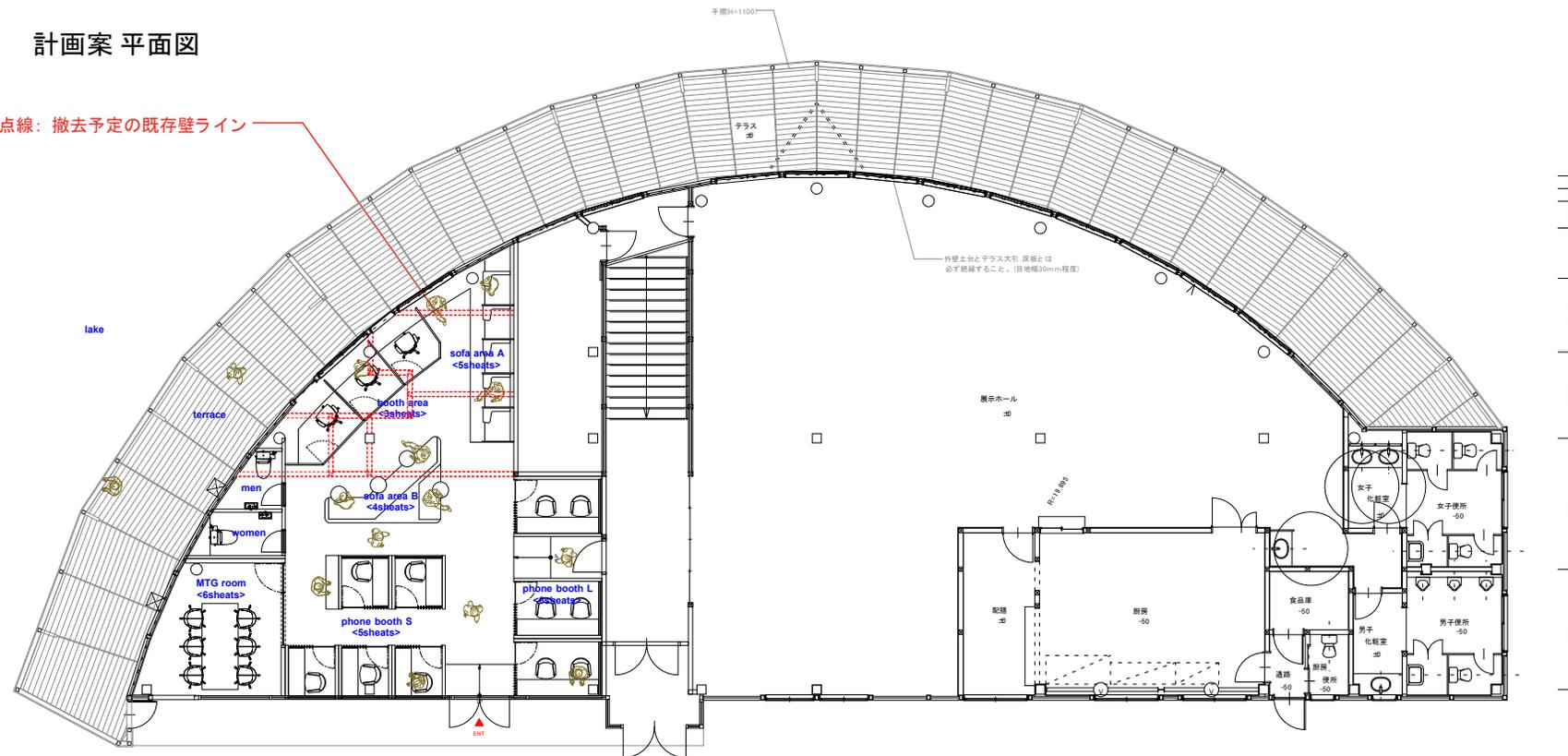
1	補助対象事業	④公的施設の観光目的での利活用のための民間活力の導入
2	工事発注先 もしくは 工事受注者	入札により決定する予定
3	実施内容	女神湖センター改修工事 1階物販スペースをシェアオフィス（個人ワークやウェブ会議ができる）へ改修する 合わせて、指定管理者（白樺高原観光事業協同組合）との契約について変更を行う
4	ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・開発合宿や経営合宿など企業合宿でワーケーションにきた社員 ・レイクサイドでのリゾートステイに魅力を感じる、テレワークの場所も必要な層 ・多地域拠点での「暮らすような旅」を体験したい・実現したい層
5	ニーズ等を踏まえた高付加価値化のポイント	<p>（ニーズ） これまでの当町の取組みで2021年度は31組172人が当エリアでワーケーションを行っているが、セキュリティが万全で多様な仕事がいつでもできるシェアオフィスが求められていた</p> <p>（高付加価値化のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ対策が高い環境（入退室管理、セキュアな通信環境、防音、覗き見対策）で、機密性の高い仕事までできること ・雑音・声を気にせずウェブ会議ができること ・レイクヴィレッジならではの、レイクビューを眺めながら働くことができること
6	事業によって期待される効果	女神湖エリアに本施設ができることで、周辺宿泊施設や別荘での中長期滞在が可能となり、観光消費額の増加が見込める。また、エリアとして新規顧客層の誘客につながる事が期待できる。 さらに、施設自体の収益性が改善し、付属施設（カフェレストラン、湖面アクティビティ等）への新規投資が可能となる。
7	事業の目標（定量・定性）	年間利用者数：1,800人、年間売上：3,240千円 女神湖エリアで、旅館・ペンション・別荘に中長期滞在する際の拠点施設として活用され、多様な旅の形を支える施設になっている
8	従業員の労務環境の改善点等	アプリによる入退室管理やキャッシュレス決済の導入により、指定管理先従業員の業務負担軽減を図る。 施設の高付加価値化に伴う収益性の改善により、指定管理先事業者の賃金改善について調整を図る。
9	予定事業費（千円）	36,300 千円 （約100平米）
10	補助要求額（千円）	18,150 千円



女神湖センター 改修工事

計画案 平面図

赤点線：撤去予定の既存壁ライン



現状写真



外観（東側：入口側）



多目的ホール（南向き）



多目的ホール（東向き）



多目的ホール（北向き）



外観（西側：裏口側）



ロッカー室UB



ロッカー室1



ロッカー室2

改修後イメージ

